

第30回日本証券アナリスト大会を終えて

大会実行委員長 三 浦 和 晴
(SMBC日興証券)

第30回日本証券アナリスト大会は、10月9日（金）に経団連会館の国際会議場・ホールにて開催された。今大会の参加者総数はパーティー参加者も含めて約700名となる盛況振りであった。

今年度の大会テーマは「日本企業の収益力向上と株式市場」であった。大会でも記念講演をお願いした伊藤邦雄先生が座長となって2014年8月にまとめられた「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築～」の最終報告書、いわゆる「伊藤レポート」が契機になり、14年度下期からROEの改善や株主還元増加などが株式市場や上場企業の間で大きなテーマとなっていた。日本企業は08年の世界同時不況を乗り越えて経常増益を続け、財務体質も再び健全化していた。「伊藤レポート」が公表されて以降、増配や自社株買いなど新たな株主還元策を発表する企業も相次いでいた。日経平均株価も08年10月に7,162円のボトムを付けた後に上昇に転じ、今年度の大会テーマを決めた3月には19,000円を超えていた。14年2月には金融庁が「日本版スチュワードシップ・コード」を公表しており、「伊藤レポート」と相まって、収益力向上を果たした企業と株式市場とがどのように対話をしていくのか、というのは証券業界に従事する



総合司会の三浦大会実行委員長

者として、改めて考えなければならないテーマであった。またわれわれ証券アナリストがこれに対してどのような役割を果たしていくのか、ということを考えることも重要であった。このような中で今年度の大会テーマが決まった。

このテーマに基づいて、記念講演Ⅰは一橋大学大学院商学研究科特任教授の伊藤邦雄先生にお願いをした。講演のテーマは「持続的成長を実現する変革シナリオ」であった。講師をご快諾いただいた伊藤先生には改めて感謝を申し上げたい。伊藤先生は講演の中で、「日本企業の持続的低収益」の問題については1990年から指摘してきたと述べられた。「日本企業は生産現場での生産性には

こだわるが、資本の生産性にこだわってきただろうか」、「日米企業のROEの差はレバレッジの差ではなく、利益率の差であった」という指摘などは、筆者にとっても改めて示唆に富む内容であった。一方で、「持続的な企業価値向上は持続的なROE向上ではない」ともおっしゃっていた。企業が高いROEを維持しながら、持続的な利益成長を果たすにはどうすべきか、われわれ証券アナリストは株式市場と企業をつなぐ者として、これにどう関与するのか、一人ひとりが考えていかなければならない課題である。

記念講演Ⅱは三菱重工業株式会社の代表取締役取締役社長 CEOの宮永俊一社長にお願いをした。講演テーマは「三菱重工業の経営改革」であった。講演の中では1996年度から14年度の売上高と営業利益のグラフを示しながら、同社は売上高3兆円前後、営業利益も横ばいの時代が長く続いたと述べられた。業績は佃社長、大宮社長、宮永社長と続く経営改革などにより、14年度には売上高約4兆円、営業利益も約3,000億円まで回復した。この間に、三菱重工業がどのような経営改革を行ってきたのかを具体的にお話しいただいた。同社は15年5月に公表された中期経営計画では、17年度に売上高5兆円、営業利益4,500億円、ROE10.2%にする目標を掲げている。また、目指す企業像の具体的な目標として、「差別化可能な事業領域への集中と多様な外力取込みによる強い競争力と世界水準の顧客満足度（高い市場シェア）」などを掲げられている。企業経営者の側から、どのように収益力を高めていくのか、どのようにROEを高めていくのか、をお話しいただけたことは、「日本企業の収益力向上と株式市場」について考える上でとても参考になるものであった。改めて、記念講演の講師をご快諾いただいた宮永社長に感謝を申し上げたい。

パネルディスカッションでは、シスメックス株式会社の代表取締役会長兼社長の家次恒会長、大東建託株式会社の代表取締役社長執行役員の熊切直美社長、日東電工株式会社の代表取締役社長の高崎秀雄社長の3氏をパネラーに迎え、メリルリンチ日本証券株式会社マネジング・ディレクターの大槻奈那氏の司会でディスカッションを行った。テーマは今大会のテーマである「日本企業の収益力向上と株式市場」であった。今回お越しいただいた3社とも、独特の強い事業や独自のビジネスモデルを持ち、業界の中では高収益・高ROEを達成している企業である。既に株式市場が求める高ROEを達成している3社が今後5年～10年先をにらんでどのようにイノベーションを図り、それをどう収益化しようとしているのか、人材の多様性をどう進めようとしているのか、大変示唆に富むお話をお伺いすることができた。家次会長、熊切社長、高崎社長の3氏と、司会の大槻様には改めて感謝を申し上げたい。

パネルディスカッションの後は、証券アナリストジャーナル賞の表彰、ディスクロージャー優良企業選定結果の報告を行った。このディスクロージャー優良企業賞については、今年度は報告のみとし、記念盾は後日お届けすることにした。

大会後に行った懇親パーティーへの参加者は370名強と講演会と同様に大盛況であった。多くの会員の皆様だけでなく、ご講演いただいた伊藤先生や家次会長、高崎社長にもご参加いただき、中締め時間を過ぎても会話の輪が途切れることがなかった。

今年のアナリスト大会が成功裏に終わったことは、大会実行委員会および大会事務局をはじめ、ご登壇いただいた方々、そして参加者の皆様のお陰である。末筆となったが、大場会長はじめ関係者の皆様へ心からお礼申し上げたい。